

## 個人視察報告書

平成24年1月29日（日）から2月1日（水）までの4日間にわたり実施した個人視察の概要を次のとおり報告する。

参加議員 伊東市議会議員（会派 民主党・刷新の会）

代表 鈴木 克 政                      浅田 良 弘                      四 宮 和 彦

### 記

1. 視察都市      1月29日（日）移動日 伊東市～成田市 前泊  
                  1月30日（月）移動日 成田国際空港～済州国際空港  
                  1月31日（火）大韓民国済州特別自治道西帰浦市  
                  2月 1日（水）大韓民国済州特別自治道西帰浦市・済州市

### 2. 視察事項

#### ①済州島における世界遺産、ジオパークのあり方について

多様な火山地形と地質資源を備えた済州道は、島全体が世界地質公園である。その中でも代表的な地質名所は、島の中央に位置し済州道の象徴である漢拏山、水性火山体の代表的な研究地として知られている水月峰、溶岩ドームで代表される山房山、済州道形成初期の水性火山活動の歴史をそのままに保持している龍頭海岸、柱状節理（火山爆発後、溶岩が冷めて体積が減った結果、縦に割れて5～6角形の柱状形になった）の形態学習の場として有名な大浦洞の柱状節理、100万年前の海洋環境を伝えてくれる西帰浦の貝類化石層、堆積層の侵蝕と溪谷・瀑布の形成過程を教えてくれる天地淵滝、タフコーンの代表的な地形で日の出のオルムで知られている城山日出峰、拒文オルム洞窟系の中で唯一、中に入ってみ学が可能な万丈窟など9箇所が代表的な名所である。伊豆半島のジオパーク認定を控え、済州島におけるジオサイトについて視察を行った。

#### ②済州道のIT観光地化の推進について

済州道は第3世代（3G）無線データとともに、ワイファイ（WiFi）とワイブロ（Wibro）も自由に利用できる「モバイルワンダーランド」とする計画を進めている。

これにより、済州道を訪れる観光客は主要観光地だけでなく、公共交通機関に乗る時やレンタカーで走る時もモバイル機器で無線インターネットを利用することができるようになる。

KTと済州特別自治道は域内観光名所の95%とオルレコースの70%にワイブロ（Wibro）4G網を構築し、現在約900ヶ所のオルレのワイファイ（WiFi）ゾーンを年末まで1500ヶ所に拡充することで協力するとした。

そのため、両機関は業務協約を締結し、公共交通機関とタクシーに移動通信キャリア3社開放型モバイルのワイファイ（WiFi）とワイブロ（Wibro）をワイファイ（WiFi）に変換させる「ワイブロ（Wibro）4Gエッグ」を装着することにした。

KTは観光客が無線インターネット網を効果的に活用できるよう、済州道観光ガイドアプリケーションである「ユー・モバイル・ツアー」を披露する予定といわれる。

KTと済州道はモバイルワンダーランド事業を通じ、「観光客1000万目標の達成を前倒しし、済州道が世界7大自然景観に選定されるよう努力したい」と明らかにした。

KTは無線インターネット網を基に、観光情報化と併行して「雇用創出」と「済州情報化」、

「スマートグリッド」事業も進める計画だ。

また、済州国際コンベンションセンター（ICC）と済州国際自由都市開発センター（JDC）、済州市庁にスマートワーキングセンターを構築し、済州道を訪れる公務員や企業の役員がモバイル機器で業務を処理できるよう支援する。

KTは済州全域のワイibro（Wibro）網を活用し、電気使用量をスマートフォンなどモバイル機器で統合管理するエネルギー効率化サービスを5月から600世帯を対象に施行する予定だ。一方、KTは2009年12月から済州道のスマートグリッド実証事業を推進している。

観光地のIT化事業の推進は、半島である伊豆にとっても大いに参考になる事業事例であると言え、済州島における事業計画の進捗について視察を行う。

- (1) 西帰浦市：済州中文大浦海岸柱状節理帯（テボヘアンチュランソルリデ）、西帰浦港、城山日出峰（ソンサンイルチュルボン）、城邑民俗村（ソンウプミンソクマウル）、漢拏山（ハルラサン）
- (2) 西帰浦市：天帝淵瀑布（チョンジェヨンポッポ）、山房窟寺（サンバングルサ）  
済州市：水月峰（スウォルボン）、済州島民族自然史博物館（チェジュドミンソッチャヨンサパンムルグァン）

### 3. 視察の概要 視察した都市及び事業の概要は以下に記載の通りである。

#### (1) 済州市

- ① 人口 421,683人（2010年12月31日現在）
- ② 世帯数 162,824世帯
- ③ 区域面積 978.0km<sup>2</sup>
- ④ 産業別就業者比率（不明）

参考（2006年済州特別自治道全体）

第一次産業	22.1%
第二次産業	3.5%
第三次産業	74.4%

#### (2) 西帰浦市

- ① 人口 155,504人（2010年12月31日現在）
- ② 世帯数 61,889人
- ③ 区域面積 870.87km<sup>2</sup>
- ④ 産業別就業者比率（不明）

#### (3) 済州島来遊観光客数

2011	8,739,778人	（対前年比 15.3%増）
外国人	1,045,582人	（対前年比 34.6%増）
韓国人	7,694,196人	（対前年比 13.1%増）

## ① 濟州島における世界遺産、ジオパークのあり方について

### ○西帰浦市濟州中文大浦海岸柱状節理帯（テポヘアンチュランソルリデ）について



石柱が海岸線に幾重にも重なりあっている西帰浦市の柱節理帯は、濟州の指定文化財である。柱節理帯は、漢拏山から噴出する溶岩が中文の前の海に流れ込んで形成され、大小の四角形や六角の石柱（30m）からできている。まるで石職人が作ったような柱節理はまさに、自然の神秘であり、ジオサイトとして一級の自然景観である。行政区域上では、昔の地名「チサゲ」を活かして「チサゲ岩」とも呼ばれている。ここでは20m近い高さの絶壁にぶつかる高い波濤と海釣りがある。

尚、同柱状節理帯の管理は西帰浦市庁が行っており、天然記念物第443号に指定されている。濟州島内の多くの施設、公園がそうであるように、同公園も入場は有料となる。入場料は大人2,000ウォン（約140円）、小人1,000ウォン（約70円）である。



ジオパーク認定の石碑



見学路に設置されたウッドデッキ

### ○西帰浦港「海底観光案内」



西帰浦港では、1988年に東洋初、世界で3番目の潜水艦を運航し20年以上の歴史と高い技術力、そしてさらに安全、便利さを増したフィンランドでつくられた世界最新の潜水艦を運航している。

西帰浦潜水艦の運航区域である西帰浦文島（天然文化財区域）は天然保護区域として色とりどりの珊瑚礁や魚の群れ、そして様々な種類の海草などがひとつになって美しい海底の秘境として知られている、世界的にも有名

なダイビングポイントである。西帰浦潜水艦でしか見られない神秘と幻想の世界と、海底で今では自然と同化しその一部となった国内唯一の難破船を見ることができる。1988年から積み上げてきた技術力に加え ISO 認証を取得した、より安全で品質の高い西帰浦潜水艦は、安全に運行した総運行時間が最も長いとして世界ギネス記録に登録された。また、このような努力によって潜水艦業界で唯一、優秀観光事業体に指定された。

所要時間 40 分、乗艦料大人 50,000 ウォン(約 3,500 円)、学生 40,000 ウォン、小人 30,000 ウォン



### ○城山日出峰（ソンサンイルチュルボン）



海拔 180 メートルの城山日出峰(ソンサンイルチュルボン)は 10 万年前、海底噴火によってできた火山である。城山日出峰は済州道の東側の一番端にそびえ立つ大きな岩の塊で、日出峰頂上には巨大な噴火口がある。噴火口は直径 600 メートル、高さが 90 メートルで、面積が 8 万坪にもなる。大きな王冠を連想させる 99 個の鋭い岩が、噴火口の周りを囲んでいる。東・南・北側は絶壁で、西北面だけが芝が稜線に生えており、それが城山村まで続いている。西北面は散策路として造成されており、階段の散策路を通過して山頂の展望台まで登ることができる。麓の緑地では体験乗馬もできる。地方天然記念物として管理してきた



が2000年7月19日に天然記念物に指定され、2007年には世界文化遺産に登録され、2010年には世界ジオパーク認定を受けた。入場料は大人（25歳以上65歳以下）2,000ウォン、青少年（13歳以上24歳以下）1,000ウォン、小人1,000ウォン（7歳以上12歳以下）となっている。



### ○城邑民俗村（ソンウブミンソクマウル）



「城邑民俗村」は朝鮮時代の典型的な村の形態を守っている由緒深い村でありながら、済州島に住む人々の生活する姿を直接見ることができる生きた文化遺産である。伝統的な姿を残した民家が、幾つもあり、入る前にボランティアのガイドがやってきて有無を言わず説明が始まる。実際に人が住んでおり、国から補助金が出ているとかで、日本語を話す住人が案内してくれる。済州島独特の三本の棒を使った門の説明をして中へ。馬に引かせる石臼や木につけた萱で雨水を甕に溜める仕組み、トイレにもなっている豚の飼育場

など。ここで飼われている済州名物黒豚。なんと、人間の排泄物をまるごと食べて育つという。他には五味子茶や茅葺屋根に発生する冬虫夏草の説明が始まるが、この辺から、セールスの匂いがし始める。また、済州島のオンドルにはソウルなどと違って煙突がないようだ。屋根は日本のように茅葺だが、古くなっても張替えはせず、上に重ねて行き、7年程度で全てを張り替えるという。そのほかにも台所が別棟であることや水汲みの様子などの説明をしてくれる。最後は、小さな部屋（村の公民館）に連れて行かれて、五味子茶（30,000ウォン）や冬虫夏草の粉末（600,000ウォン）、馬の骨で出来たサプリなどの購入を勧められる。日本人観光客としては、面食らう部分があるが、おそらく、こうした物販が城邑民俗村の観光収入になっているのであろうと思われる。



## ○漢拏山（ハルラサン）



漢拏山は一帯が国立公園に指定（1970年3月24日）されており、また、韓国の天然記念物第182号として天然保護区域となっている。2007年6月27日には、「済州の火山島と溶岩洞窟」の主要部分として、ユネスコの世界遺産にも登録された。初夏のゲンカイツツジやオンツツジが咲く時期は中腹がピンクの花で覆われ、また、秋の紅葉も美しいため、多くの登山客が訪れる。海拔1,000～1,500mの地帯はタンナザサなどのササ類が多く茂り、チョウセンシラベも多い。

かつては釜岳（プアク）、圓山（ウォンサン）、鎮山（チンサン）、仙山（ソンサン）、頭無岳（トゥムアク）、浮羅山（プラサン）、瀛州山（ヨンジュサン）、穴望峯（ヒョルマンボン）など、さまざまな名称で呼ばれた。

金剛山（クムガンサン）、智異山（チリサン）と合わせて、三神山とも称される。

漢拏山は地質学上、第三紀に噴火した火山であり、周辺には360個の側火山（地元でオルムと呼ぶ）が形成されており、最終噴火は11世紀初頭（高麗時代）の1007年であると見られている。典型的な盾状火山である。プレートの衝突する日本列島と異なり、韓国には火山が少なく、主なものは漢拏山と鬱陵山のみである（北朝鮮には白頭山がある）。

頂上に火口湖の白鹿潭（ペンノクタム）がある。

2012年2月現在、山体保護の為、東稜の一部を除いて、頂上部への立ち入りは禁止されている。また、西北壁、南壁への立ち入りも禁止されている。従来入山料が徴収されていたが、世界自然遺産登録後無料となった。

整備されている登山路（探訪路とも呼ばれている）は5つあり、観音寺登山路、城板岳登山路の2つは火口脇の東稜頂上まで行くことができ、互に通じている。残りのオリモク登山路、霊室登山路はこれより短く、トンネコ登山路は西帰浦市側から登れ、互に通じているが、いずれも西北壁、南壁が通行禁止のため、海拔約1,700m地点までしか登ることができない。

また、夜間登山は禁じられており、日没前に完全下山完了できるように、季節により時間が異なるが、途中の待避所で12時前後になるとそれ以上登れず、東稜頂上で14時前後になると下山が求められる。また、火気の使用も禁じられている。

登山路が整備され、待避所もあるため、





軽装で登る観光客も多いが、急な気象変化に備えて、ある程度の装備はする事が望ましい。特に11月から4月は山頂部で氷雪に合うことを念頭に置いておく必要がある。

### ○天帝淵瀑布(チョンジェヨンポツポ)



「神の蓮池」という意味を持つ天帝淵(チョンジェヨン)は、3段の滝からなっている。天帝淵瀑布の周辺の林には松葉蘭などの珍しい植物が自生している。第1瀑布(高さ22メートル、水深21メートル)から流れ落ちる東側の岩洞窟の天井からは冷たい水が流れ出しているが、現在は水泳が禁止されている。瀑布から流れ出る水は第2瀑布、第3瀑布になり海に流れ込んでい



る。  
天帝淵溪谷には「仙臨橋(七人の仙女を彫刻したアーチ型の橋)」と「天帝楼」と呼ばれる八角の楼閣が建てられている。七仙女と呼ばれる仙臨橋は天帝淵と中文観光団地に続く橋で128メートルにもなる。天帝楼の外壁には天帝淵の伝説がこめられた仙女図と神仙図が描かれている。毎年、偶数年の5月には、七仙女祭りが開かれている。

### ○山房窟寺(サンバングルサ)

漢拏山の白鹿潭にあった峰が引き抜かれ投げられてできたという伝説の伝わる「山房山(395メートル)は、済州の他の山とは違って噴火口がない。高さ5メートルの西南側絶壁にある岩洞窟は本来、山房窟であるが、中に仏像が安置されているため山房窟寺(サンバングルサ)と呼ばれている。王建(877~943)が、分裂した韓半島を統一して高麗(918~1392)を築き上げたが、そのときの高僧慧日法師(964~1053)が建てた寺院である。洞窟の中には海岸線に沿って馬羅島と龍頭海岸の姿を見ることができる。また洞窟の天井には一年を通して水滴が落ちており、洞窟の中に溜まっていくのを見ることが出来る。山房山の断崖の上の植物地帯は天然記念物に指定されており、済州で唯一「アサマツゲ」が



自生している。

朝鮮時代（1392～1910）後期の学者である金正喜（1786～1856）がよく訪れたという龍頭海岸側には、台風のため漂流したオランダ人ハメル（?～1692）を称えるためにハメル漂流記念碑が建てられている。



### ○水月峰（スウォルボン）



水月峰は済州の数多くのオルム（寄生火山 parasitic volcano）の中で、最も西側の高山里にある小さな峰である。水月峰は海拔77m、海岸に突出しており、済州で最も広い平野を挟んでいる。澄んだ日の海を赤黒く染めながら沈んでいく落照（夜に沈む日差し）の風景は、沙羅峰の日没の風景と競う程に、とても印象的で美しいと言われている。水月峰の頂上には、小さな亭子「水月亭」



があり、ここでは済州で最も美しいと言われる「遮帰島」だけでなく松岳山、竹島を一目で見渡すことができる。その横には 済州島西部地域の気候を観測する高山气象台がある。水月峰の下には、小さな庵子（大きな寺にある小さな寺）もあり、海側には削られたような「オンアル」と呼ばれる絶壁がある。ここの岩壁には龍雲泉（ヨンチョンス）と言われる薬水（薬効果がある生水）が湧き出てくる。

### ○済州島民族自然史博物館（チェジュドミンソツチャヨンサパンムルグァン）

民族自然史博物館は、済州道内に散在する固有の民俗遺物と自然史的資料を調査、研究、収集して展示する国内唯一の博物館で、1984年に開館した。展示室には済州人の一生の通過儀礼をはじめ、衣・食・住と生産産業の資料などを立体的





に展示している。一方、済州道の形成過程、地質岩石、海洋植物、動物、植物の資料などを生態学的に展示し、済州の自然と人文文化を一目で理解できるようにしている。展示室に展示された資料と所蔵されている資料は、体系的に選別、掲載してあり、観覧しやすくなっている。

## ② 済州道の IT 観光地化の推進について

2011 年 4 月時点で計画発表があった済州島「モバイルワンダーランド」事業であるが、済州特別自治道、済州市、西帰浦市等の行政窓口とのアポイントメントが取れず、計画の詳細については説明を受けることが、残念ながら出来なかった。

島内での通信環境については、携帯電話 3G 回線網の整備状況は島内東部一部地域を除いて良好であり、携帯型無線 LAN 端末を借り受けて、スマートフォン、タブレット PC を利用して現地での施設情報を取得することについてはストレスなく使用できる環境にあったと言えるが、事業自体は、これからという印象を受けた。